



～まちなかの個店を五感で感じてみませんか～

「NUMAZU まちの感触」。最終号 vol.9「愛」を発行します

要 旨

沼津駅前のまちなみをいつもと違った視点で楽しんでいただくことを目的に、「五感で感じるまちなか商業」をコンセプトとして、駅周辺の個店の魅力をテーマごとに編集した魅力発見BOOK「NUMAZU まちの感触」。最終号 vol.9「愛」を発行します。

概 要

名 称 NUMAZU まちの感触 vol.9 『愛』

発行日 令和5年11月30日(木)

- ・ 令和2年度より、8号にわたり、「五感で感じるまちなか商業」をコンセプトに、沼津駅前の個店の魅力を紹介してきた「NUMAZU まちの感触」。最終号となる vol.9 では『愛』をテーマに特徴ある個店を取材しました。
- ・ 「ご自愛～自分を愛でる」「〇〇愛溢れる」「そこには「愛」がある」まちなかの個店から溢れる様々な『愛』を紹介します。
- ・ 制作は「NUMAZU DESIGN CENTER」の大木真美さんを中心とした、地元沼津で活躍中のクリエイター陣によるもの。
- ・ 冊子はまちなかの店舗のほか、市役所や沼津コート（ららぽーと沼津内）、沼津駅南口地下道ショーケースでも配布予定です。
- ・ 市ホームページや公式SNSで情報発信しています。

【公式 SNS】

Facebook: [numazumachikan](#)

Instagram: [numazu_machikan](#)



お問い合わせ先

沼津市役所 産業振興部 商工振興課

直通:055-934-4748

NUMAZU

まちの
感 触

vol.9

愛

沼津の「愛」にまつわる個店の深〜い話

NUMAZU

まちの
感 触

＼ SNSでも情報発信しています /



#沼津まち感

五感で感じる まちなか商業

沼津の駅前、いつもの日常、いつものお店。買い物の途中、ふと、あのお店の光景が目飛び込む。「あれ。このお店、なんだかとても愛に溢れてるな。」なんとなく『愛』を気にしてまちを歩くと、あのお店にも、この通りにも、個性あふれる『愛』があるではないですか！さらに、五感をフル回転してみると、日常に溶け込んでいたまちの色、音、匂い、その感触は、今まで見えていなかったまちの奥深い魅力に気がつきかけとなりました。

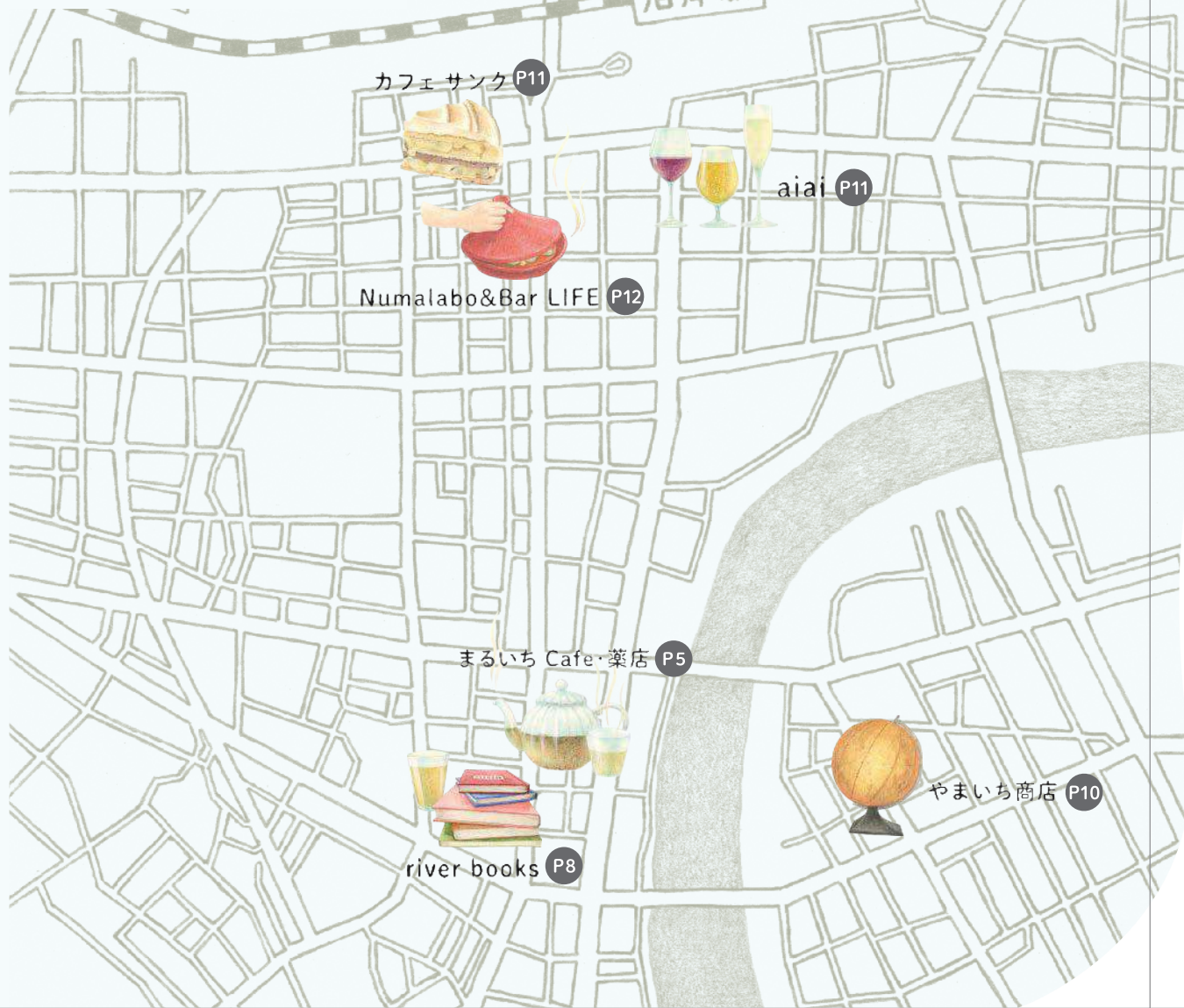
今回はそんな『愛』をテーマに、沼津のまちなかの特徴ある個店取材。『愛』に秘められたひとつひとつのお話には、深い深い魅力が詰まっていました。さあ、いつものまちとお店を、ちょっと違った視点で楽しんでみよう！

CONTENTS

- 02 沼津市中心市街地MAP
- 03 特集
ご自愛～自分を愛でる
- 05 まるいちCafe・薬店
〇〇愛溢れる
- 07 ASOBU-515
- 08 river books (リバーブックス)
- 09 沖縄茶屋なんくる
- 10 やまいち商店
そこには「愛」がある
- 11 樽生クラフトビールとワイン aiai (アイアイ)
カフェ サンク
- 12 Numalabo&Bar LIFE
630 STAND (ロミオスタンド)
- 13 地域CREATORのまちなかの愛
- 14 編集後記

NUMAZU CENTRAL MAP

沼津駅を中心に南と北、それぞれのエリアを感じる今回のテーマは『愛』。愛を感じてまちを歩けば、個性的な個店が醸し出すまちの濃淡に気づくかも!?



ぐい自愛溢れる



特集

愛溢れる個店で まちの深みを感じる

『愛』と簡単に言ってしまうのは憚られますが、とても良い心地になったり、あたたかな気持ちになったり、幸せを感じたり。『愛』を感じるお店には、人も自分も幸せにする「思い」があるので、溢れるでしょうか。まちの個店にも、それぞれの『愛』が溢れています。

例えば、まちの薬店。自分の身体も心も大切にしたいという思いから、「ご自愛」というキーワードでさまざまな価値を提供しています。忙しい日々のなかでは自分を大切に時間をゆっくり取れないことがあるかもしれませんが、自分自身を愛でる気持ちが、他人に向ける愛に繋がるようにも思います。そんなまちなかの『愛』からはじまるお店やまちの奥深さ、もっと知りたいと思いませんか？

身体にも心にも 気持ちのいい選択を

天然せっけんや純オーガニックコットン製品など、安心して使用できる商品を販売。丸いフォルムがかわいい陶器「ポーリッシュ・ポタリー(ポーランド食器)」は、販売の他、店内でホットドリンクを注文すると、好きなデザインのカップ&ソーサーで提供してくれる。「ご自愛という言葉をお店に来て体感してください。看板犬のはなちゃんも待っています」



リブランディングによる 新しい店づくり

沼津市の「沼津発！リブランディング企画塾」に参加。有志サポーターとともに約10ヶ月をかけ、店の魅力をさらに高める新商品やサービス開発に取り組んだ。薬屋が、健康をサポートするために始めた「ヨガ・ピラティススタジオ(運動)」と「カフェ(食)」。この3事業の共通点は「自分を大切にすること」、そこで「ご自愛」というキーワードが誕生した。



まるいちCafe・薬店

静岡県沼津市本町14
TEL 055-963-0542
営業時間 10:00~17:00(L.O.16:00) 定休日 日・月曜、祝日、夏季休暇、冬季休暇
<https://cafe.pontiamo.com/> @maruichicafe

色、香り、温かさにほぐれる気持ち。 自分を愛するための場所



忙しい毎日。仕事もプライベートも気がつけば、自分よりも家族や友人、周囲のことを優先する日常になってはいないだろうか。「がんばっている」自分をもっと愛して、心と身体を健康にする「まるいちCafe」の「ご自愛体験」。中でも、「今日のわたしのハーブティー(1,000円)」がおすすめ。その日の体調や気分などを「ハーブティーブレンドカルテ」に書き込むと、今の自分の状態を客観的に知ることができる。その結果を参考にしつつ、気分が晴れやかになる色を楽しむブレンド、香りに重点を置いたブレンドなど、35種類のハーブの中から世界に1つだけのオリジナルハーブティーを作ってみよう。「ハーブブレンド」の資格をもつ店主の高橋美和子さんが、カルテを見ながらアドバイスをくれるので、ハーブの知識が無くとも安心して、ぜひ気軽に試してみたい。自分と向き合い、気持ちをほぐしてくれる心地よい時間を過ごすこと。自分への「愛」にふさわしい体験がここにある。



市民に愛された名店の品を継ぐ 新しくて懐かしい書店

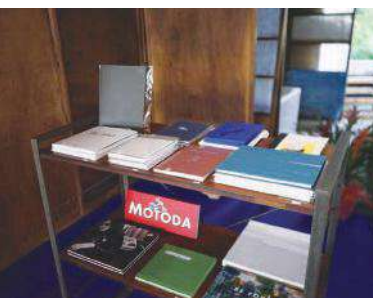
新刊書店リバーブックスが本町にオープンした。店主の江本典隆さんが金曜の夜と週末のみ営業するギャラリーのある小さな書店だ。会社員をしながら「いつか自分で本屋をするなら…」という妄想を重ねていたという。

「転機となったのはマルサン書店仲見世店の閉店だった。幼少期から通っていた思い出の店がなくなる。その衝撃が彼を揺り動かした。「本に出会う場を自分で作るしかない」と、偶然知った市主催の空き物件活用事業を実現させる for now スクールに参加した。頭の中にあっただイメージを事業計画にまとめると高評価を得て、現在の物件を借りることに。その後、縁あってマルサン書店の本棚を譲り受けた。

店内に人気のベストセラー作品はほぼない。しかし、ここにある本には選ばれた理由がある。アートブックや小さな出版社の本を眺めるうちに好奇心が湧き出し、新たな世界が広がっていく。沼津クラフトのビールや富士市のほうじ茶の提供もスタートした。



リバーブックスにはマルサン書店の本棚のほかにも、江本さんが行きついていた居酒屋相棒(閉店)の椅子やビールサーバーもある。



river books
(リバーブックス)

静岡県沼津市下本町34
TEL なし
営業時間 金曜 20:00~22:30 / 土・日曜 14:00~21:00
定休日 月~木曜 ※インスタグラムで告知
📍 @Riverbooks_NMZ 📷 @riverbooks_numazu

先代への愛を感じる 職人がつくる沼津発の キャンプギア



焚き火台 IRORI-201

ASOBUオリジナル焚き火台「IRORI-201」。3枚のステンレスが生み出す曲線が美しい。折りたたむとA4用紙サイズに収納できる。本体重量560g。

アウトドア雑貨を扱うショップ ASOBU-515は、沼津発のオリジナル商品ASOBUを中心に、個性派ガレージブランドのキャンプギアを販売する。

(株)ASOBU代表の宮内保昌さんは、金属加工を行う宮内製作所代表だった父親の夢を受け継ぎ、父の誕生日である5月15日に会社を立ち上げた。宮内さん自身も職人であり、金属の扱いはお手の物。長年の経験と知識をもとに、ASOBUアイテムの企画製造を行う。使い勝手と機能性を突きつめていくうちに、唯一無二の美しいキャンプギアが完成した。軽くてコンパクト、それなのに使いやすく頑丈なASOBUのアイテムは、こだわりの強いソロキャンパーからも愛されている。



ASOBU-515

静岡県沼津市高島町1-3 おおたけビル1F
TEL 055-957-8012
営業時間 11:00~19:00
定休日 火・水曜 ※祭日は変更あり。詳しくはインスタグラムで告知
<https://asobu515.jp/> 📷 @asobu515



買い物がスマホで済む時代に 敢えて実体験を。 文化と人と繋がる場所



2023年4月にオープンした、
ヴィンテージ雑貨を販売する「やまいち
商店」。もともと古い物が好きだった
店主の小林誠さんは、イギリスに住んで
いた時に多くのヴィンテージ雑貨や
古着に触れることで見る目を養い、
知識を身につけたそう。また、リペアを
繰り返しながら物を大切にする文化に
愛情を感じたのだとか。一点ものを
扱うギャラリーのような販売店だが、
手に取って、触り心地も楽しんだうえで
出会えてよかったという一品を選んで
ほしい。

「知識や技術に触れるという体験を
通して、この店で新しい自分を発見して
もらえたら。人に何かをしたい、され
たいって気持ちは愛だと思っんです。」



やまいち商店



静岡県沼津市市場町19-8 1F
TEL なし
営業時間 火～木 13:00～19:00 / 金・土 14:00～20:00
定休日 日・月曜
📍 @yamaichi_shoten



うちなんちゅう やまとんちゅう 沖縄人も大和人も 沖縄を愛する人が集う

沖縄出身の岸本美代子さんが「沖縄文化を伝えたい」とはじめた沖縄茶屋なんくるは、2024年4月に20周年を迎える。静岡東部でも老舗の沖縄料理店だ。多くの食材を沖縄から仕入れ、沖縄料理に欠かせない濃厚なダシは店内で3日かけてとる。また、人気のサーターアンダギーは、毎朝揚げたてを用意している。こだわりの料理を彩るのが、沖縄伝統の陶器(やちむん)と琉球ガラスだ。店内では、沖縄から届く食材や雑貨の販売も行う。さらに沖縄民謡のライブや沖縄関連のイベントも行われ、沖縄出身者と沖縄好きが集い、沖縄愛を語り合う場となっている。



シャキシャキ食感の沖縄もずくを味わってもらいたいと、もずくを練り込んだ特製麺を使ったオリジナルメニュー「もずくそば」。特製麺は宮古島の製麺所から取り寄せている。



沖縄茶屋なんくる



静岡県沼津市新宿町12-8
TEL 055-925-5511
営業時間 11:30～14:30 (ラストオーダー 14:00)
金・土曜 18:00～22:00 (ラストオーダー 21:30)
定休日 日・月曜



そこには「愛」がある



「私には二人のお母さんがいて、彼女たちのように“まちの実家”を作りたいんです」と店主の神宮さんは穏やかに笑う。二人のお母さんとは、子どもの頃、沼津の楽しさを伝え、子ども時代を素晴らしいものにしてくれた亡きお母さんと、商店街で「みぎしま」という店を70代まで一人で切り盛りし、多くの人にとって伝説的な存在の「みんなのお母さん」。二人の素敵なお母さんに憧れて店を開き、モロッコ料理を中心に“体に優しいもの”をテーマに料理とお酒を提供している。そんな彼女のお店には、毎晩のように多種多様な人たちが集い、ドアからはいつも優しい明かりがこぼれている。

Numalabo&Bar LIFE

静岡県沼津市添地町78 クリスタルビル1F TEL なし

営業時間 19:00~23:00

☎ @life_numazu

二人のお母さんが教えてくれた、
「沼津のまちなかの愛」



自分が住むまちで、そこで採れるものを食べて、そこに住む人たちと楽しい人生を送る。店主の立川さんは、料理を学んだフランスで、そんな価値観に大きな影響を受けた。この店では、その言葉の通り、沼津周辺地域の豊かな自然が育む食材を生かして、地産地消をとて自然なカタチで取り入れている。さらには「美味しい、楽しいを作るために働こう。そして、それをみんなに届けよう！」という理念をスタッフと共有して、絶対的な信頼感のもと、店を運営している。aiaiの料理を食べると、美味しいだけでなく、どこか軽やかで楽しい気持ちになるのは、実はこんな素敵な想いがあるからなのだ。

樽生クラフトビールとワイン aiai (アイアイ)

静岡県沼津市大手町3-5-4 2F TEL 055-962-1549

営業時間 17:30~24:00、日曜のみ 15:00~23:00 不定休

<https://r.gnavi.co.jp/p0j7detw0000/> ☎ @aiai_numazu

「全ては、自分が住むまちにある」
という愛。

こどもたちに「夢はかなう」ということを
見せたくて、この店を開きました。



人はみんな夢を描くけれど、実際にそれを叶えることができる人は、どれだけのものだろう。「夢は叶う」ということを子ども達に見せたくて、この店を開きました。」と店主の友美さん。彼女の娘さんが、歌手を目指して日々奮闘しているなか、まずは自分が夢を叶えてその背中を見せたい、そして「あなたは大丈夫、いつも信じているよ。」と、子ども達に伝えたいと、まっすぐ目をそらさずに話してくれた。店名は息子さんの誕生日が6月30日だから「ロミオ」。そんな彼女の愛がたくさん詰まったこの店は、料理も家庭料理のようなあたたかさがあり、どんな人にも夢を叶える勇気をくれる。

630 STAND (ロミオスタンド)

静岡県沼津市新宿町3-26 TEL 090-2084-0630

営業時間 11:30~14:00、17:00~22:00 土曜 17:00~22:00

☎ @630_stand

お菓子作りにおける、
5つ目(サンク)の要素は「愛」。



お菓子作りには重要な要素が5つある。砂糖、卵、小麦粉、バター、そして「愛」。この「5つ目」はフランス語で「サンク」、そう、この店名の由来だ。専門学校で、未来のパティシエたちに教鞭をとるかたわらで、2021年に自身のお店をオープン。昔から使われているシンプルな素材で作ることを大切にしている。「子どもに喜んでもらうのが、何より嬉しい。だって子どもは正直だから。」と穏やかな笑顔で語る店主が作るお菓子は、身体にやさしい材料を使用しているから、子どもでも安心して食べられる、どこか懐かしい味。まさに愛がいっぱい詰まったお菓子なのだ。

カフェ サンク

静岡県沼津市添地町73 大興ビル2F TEL なし

営業時間 11:30~20:00 (ラストオーダー 19:00) 定休日 水曜

☎ @cafe_cinq_1210 <https://page.line.me/405tgwzh>

編集後記



「五感で感じる」というテーマではじまった、まちなか商業の魅力発見BOOK、第9号は、『愛』にフォーカスしました。個店の『愛』にまつわる人や時間や空間が、いつもとは違うお店の魅力に気付くきっかけになれば幸いです。さて、『愛』を説明せよ、と言われるとなんと答えるでしょうか。思いやり、愛情、大切にすること…。日本の古語では「愛（かな）し」と書いたそうで、相手をいとおしい、かわいいと思う気持ちや、守りたいという思いを抱くさまを表したそう。かわいい・いとしい、心ひかれる・すばらしい、かなしいほどに…。『愛』はやはり、奥深いですね。さあ、五感を研ぎ澄まして、愛溢れるまちを歩いてみよう。

NUMAZU まちの感触 vol.9

2023年11月30日発行

発行 沼津市商工振興課

〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16-1

制作進行

アートディレクション・デザイン

撮影 (表紙・P3～P6)

イラスト

取材・執筆

増田陽一 (SBSプロモーション沼津支社)

大木真実 (NDC&DESIGN INC.)

梁充克 (minori photo works)

大嶽りや (Lib.)

増田都佳佐

(P5P6、P10)

森岡まこば

(P7～P9)

青木恵美

(P11～P12)

本誌制作 地域CREATOR のまちなかの愛



「す、すみません、ティッシュください」と言いながら、グシュグシュになった鼻水と涙を拭うという取材は初めてでした(笑)。今回のテーマ『愛』はやばかったです、本当に。“自分のお店を持つ”ということは、まさに“愛情表現”そのものなのかもしれないと始終感じた素晴らしい時間でした。

青木恵美



お店の方が丁寧に自筆した手書きのPOPを見ると「愛」を感じます。簡単にPCやスマホで定形のものが作れてしまう今、決まり文句でない、お店の方の言葉で書かれた魅惑の手書きPOP・・・コメントがマニアックであればあるほど、つい購入しちゃう感じがします！

大木真実



小さい頃、祖父と沼津の街中に訪れると、決まってお屋を食へに行く町中華のお店がありました。祖父と行けなくなっても、そこへ行くと祖父との思い出が蘇ってきたものです。そのお店は無くなってしまいましたが、愛する人との思い出のあるお店は何度も訪れたいなってしまいます。

大嶽りや



「まちなかの愛」で思い浮かんだのは「沼津あげつち商店街の花壇」です。お店の方や有志の方が集まって、花を植替え、水やりなど日頃から手をかけてくれているので、いつ見てもきれいに咲いています。多くの方の愛が詰まった花壇に元気をもらっています。

増田都佳佐



電灯の柱になぜかカブトムシのオブジェがあったり、歩道上に沼津の歴史を紹介するパネルが埋め込んであって読み込んでみたり、春は、蛇松緑道が桜と猫を愛する道になったりと、気づくと「愛」に出会える沼津が大好きです！

増田陽一



沼津で「愛」を感じる瞬間、制作チームのメンバーが商店街を歩いていると、お店の方たちが話しかけてくれること。店から顔をだして笑顔で近況を報告し合う様子は、沼津のみなさんの愛情深さを感じます。『まちの感触』シリーズを通じて、私も街の一員になれていたらいいな。

森岡まこば



自分が歳をかさねるにつれ、愛するお店がいろいろな事情でなくなってしまうことがあります。その度に、俺の愛は伝わっていたのか？といつも思います。自分ができる愛情表現、お店に通いつける事をこれからもしていきたいと思います。

梁充克